

ジョン・デナム DIUS 閣内大臣の講演について

2009年2月19日に王立工学アカデミーで、デナム DIUS 閣内大臣が研究助成システムの在り方等について講演しました。概要は以下のとおりです。

(1) 英国の研究助成システムのあり方

○景気後退局面及び回復後も含めて、英国の研究助成システムを、特に以下の観点で、魅力あるものに改善すべき。

- ① 高い研究の質を確立し、最良の研究人材を惹き付け、官民から新たな研究助成を引き出し、基礎・応用の研究基盤を拡大する。特に、(公的助成は過去最大規模であることもふまえて)、民間からの投資増加を促す。
- ② グローバル企業が、英国の研究者に投資し、雇用を創出するよう惹きつける。
- ③ 優秀な研究人材を英国に惹きつける。
- ④ 研究成果の経済社会へのインパクトを考慮する。
- ⑤ 英国の研究基盤(Reserch Base)を、グローバルな経済・課題(Challenges)に適合したものにする。グローバルな課題への対応のため、多様な研究助成による、グローバルな研究協力は必須。

(2) 英国の大学への期待

○英国の大学は、より産学連携を推進すべき。研究所を自身で効果的に設置している米国の大学(ハーバード大学、スタンフォード大学、MIT 等)の戦略をみて、より国際競争力をつける必要があるかもしれない。

(3) 総論(重点投資分野の特定も含む)

○政府は、これら全てについて国家の政策として同時に取組み、経済的なポテンシャル及び競争優位性の観点から重点投資分野を特定する必要。

○政府は、研究助成の予算及びデュアル・サポート・システム(基盤的資金と競争的資金の助成)を堅持するとともに、重点投資する研究分野等の特定は研究コミュニティーにより行われるべき旨改めて表明。

(4) 参考資料

○DIUS プレスリリース(2009年2月19日)

<http://nds.coi.gov.uk/environment/fullDetail.asp?ReleaseID=392995&NewsAreaID=2&NavigatedFromDepartment=False>

○デナム DIUS 閣内大臣スピーチ(2009年2月19日 @王立工学アカデミー)

<http://www.dius.gov.uk/speeches/denhamscience190209.html>

(了)